

人物書誌大系 47

坪田讓治

山根知子・鈴木榮一編

目 次

凡 例	(2)
I 概 説	1
II 年 譜	13
III 著作目録	37
付・教科書掲載作品	346
IV 作品集目録	349
V 研究・参考文献目録	399
VI 作品名索引	415
あとがき	461

凡 例

1. 本書の概要

本書は、坪田譲治（明治23（1890）年3月3日－昭和57（1982）年7月7日）の作品および参考文献などを対象とした個人書誌である。全体の構成は以下の通り。

- I 概 説
 - II 年 譜
 - III 著作目録（出版年月順）
付：教科書掲載作品（出版年月順）
 - IV 作品集目録（出版年月順）
 - V 研究・参考文献目録（出版年月順）
 - VI 作品名索引
- あとがき

2. 共通事項

- (1) 目録（Ⅲ～Ⅴ）の各編に通し番号（A～Dの記号付き文献番号）を、各文献の前に示した。
- (2) 文献の排列は、原則として出版（発行）年月順とした。
- (3) 図書は「 」、雑誌・新聞などは「 」で示した。
- (4) 令和4（2022）年3月末までに確認できた内容を収録している。

3. 記載事項

- (1) 「I 概 説」
坪田譲治の作家活動、本書に初掲載した新発見作品および坪田譲治研究の可能性について概説した。
- (2) 「II 年 譜」
『坪田譲治全集 第12巻』（昭和53（1978）年 新潮社）の「坪田譲治年譜」（水藤春夫作成）に基づき、故坪田理基男氏より生前提供された学籍調査等の情報および写真を挿入したほか、新たに確認できた情報を加えて作成した（写真提供：坪田理基男・坪田真紀）。

(3) 「Ⅲ 著作目録」

- 1) 原則として昭和50（1975）年（譲治85歳）頃までの著作類や作品集を対象とした。作品集は単著に限り、同題名・同出版社であっても構成が異なる場合は採用した。但し、再掲載の煩雑さを避けるため『坪田譲治全集（全12巻）』（新潮社 昭和53年、以下『全集』とする）及び旧版『坪田譲治全集（全8巻）』（新潮社 昭和29年）は省略した。
- 2) 作品の排列は原則として出版年月日順とした。但し、発刊が不明なものは「掲載書籍不明」、発刊年月日が不明なものは「発行年月日不明」に分類し、末尾に置いた。発刊月が不明なものは該当発行年の1月、発行日が不明なものは該当発行年月の1日に排列した。発行年月日や所蔵等の不明点の残る項目には「※」印をつけ区別した。
- 3) 収録数は、初出2,600（発行年不明4含）、再掲載2,183（発行年不明1含）、発行不明32の合計4,815点である。
- 4) 収録作品の分類は、概ね『全集』の巻分類をもとに〔小説〕〔童話〕〔昔話〕〔随筆等〕とした。〔随筆等〕には、解説をはじめ、あとがき、まえがき、アンケート、インタビュー、書評、批評、座談会などを含んでいる。
- 5) 書籍種別を問わず再掲載作品も概ね収録したが、初収録の作品集収録作品については、〈初収録〉として初出作品に作品集を併記するのみとした。また、初出作品名を優先したため、目録の作品名が作品集掲載の作品名と異なる場合もある。
- 6) 注記内（先頭*）の「坪田ノート」は吉備路文学館所蔵の譲治自筆のノート群の略称である。
- 7) 付記の教科書掲載作品は、43点（重複含む）を収録した。

(4) 「IV 作品集目録」

- 1) 原則として昭和50（1975）年（譲治85歳）頃までの作品集を対象とした。単著に限り、同題名・同出版社であっても構成が異なる場合は採用した。収録作品集は250点である。
- 2) 初収録の作品はゴシック体で示した。

(5) 「V 研究・参考文献目録」

図書・雑誌等に発表された坪田譲治に関する研究文献147点を収録した。

(6)「Ⅵ 作品名索引」

「Ⅲ 著作目録」全作品を対象として、作品名の五十音順に排列し、文献番号（A0001～）を示した。

(7)「あとがき」

本書の目録作成の過程をはじめ、作品数や種類の推移からみた坪田譲治の作家活動、研究の課題等を記した。

4. 補足事項

- (1) 作品名や発行者名等の表記については、昭和20年頃までは可能な限り原典に従い、それ以降については作品集再掲載との混在もあり、原則として新字と現代仮名づかいにあらためる程度とした。
- (2) 作品題名等には、今日の観点から不適切とされる語句が見られるが、作品成立時の時代背景を考慮し、そのまま使用した。

概 説 ～坪田譲治作品の全貌を求めて～

1. 坪田譲治全集をめぐる

小説家・児童文学作家の坪田譲治（明治23（1890）年-昭和57（1982）年）は、92年の生涯において、膨大な数の作品を生み出し、そのジャンルは小説、童話、随筆を中心としている。

こうした坪田譲治作品は、これまで全集と名のつく形で、譲治の生前において3回にわたり、下記のように刊行されている。

- ①『坪田譲治全集』全8巻 新潮社 昭和29（1954）年5月～12月
- ②『坪田譲治童話全集』全12巻 岩崎書店 昭和43（1968）年6月～昭和44（1969）年6月
- ③『坪田譲治全集』全12巻 新潮社 昭和52（1977）年6月～昭和53（1978）年5月

これら3つの全集のうち、①の全集は、完結の翌昭和30（1955）年3月に、65歳の坪田譲治が日本芸術院賞を受賞することとなった理由にも関わる全集であるという意味でも重要である。

すなわち、この日本芸術院賞の受賞理由として記された内容は次のようであった。

氏は、その文学活動において、単純、素朴、真実と深い愛情を示し、新興児童文学の異才として面目を保ち、今日に至っている。その間、後進を指導し、激励し、文学の向上に力めた。その著『坪田譲治全集』は、文学と人為との一致した特色あるものとして、今回日本芸術院賞を贈るゆえんである。

この戦後10年が経ようとする時代の受賞当時に、譲治文学は作者の

人となりとともに知れ渡り、日本文学史において児童文学の文学芸術的価値を高めた業績によって大きく評価されたといえる。その後、昭和39（1964）年には、譲治は日本芸術院会員に推されて就任する。

次なる②の岩崎書店刊全集は、『坪田譲治童話全集』という名称の通り童話を集めた全集として、初版では全12巻で刊行された。なお、のちに譲治没後の昭和61（1986）年に新版が発行される際、晩年の作品が収録された第13巻と、「対談」「評伝」「作家・作品論」「著作目録・作品目録」が収録された「坪田譲治童話研究」としての第14巻が加えられた。

③の全集は、再び新潮社から刊行され、譲治88歳の年に完結した全集である。これは、譲治生前における最後の全集であり、全集完結以降の新たな作品発表は数少ないため、生涯の代表作を集めた全集であるといえる。つまり、この全集第12巻の「主要著作目録」に付された「凡例」にも、この全集は、「昭和五十三年三月現在までに刊行されたものを対象」として「主要なものを収録した」とあるように、文字通りの完全な「全集」とは言えないものであった。

以上のような生前刊行の3種の全集が発行されたあと、坪田譲治は、昭和58（1982）年7月7日に92歳でその生涯を終えた。その譲治没後、これまで譲治作品の全貌は明らかにされる機会はなく、真の意味での全集が刊行されることが望まれていた。

こうして、譲治作品の総合的な創作状況は未知であったが、上記③の新潮社版『坪田譲治全集』の収録数625作品（小説・童話・昔話・随筆、「まえがき」「あとがき」含む）に対して、それを上回る作品が存在することは、調査を始めた約20年前から想定されていた。

そうしてこの約20年来の調査を通して、今回の本書に挙げることのできた作品数としては、作品や随筆、あとがきなど、また同一作品の再掲載も含んだ合計作品数が4815作品、そのうち初出作品は2600作品もの数にのぼっている。この初出作品数は、③の新潮社版『坪田譲治全集』の4倍以上となっているのである。

本書『人物書誌大系47 坪田譲治』は、そうした坪田譲治の著作の全貌を可能な限り調査して刊行することを目的とした。なお、本シリー

ズの別の人物書誌大系のなかには、研究文献一覧が大変充実した巻も見られるなかで、坪田譲治の場合には全著作がまだ明らかになっていないこうした事情から、本書によってようやく譲治作品の全貌に近い状況が見えてきたといえる段階である。したがって、本書を踏まえて、今年の令和4（2022）年7月7日に迎える没後40年という節目を契機に、譲治文学の全貌を視野に入れた研究による新たな譲治作品理解が深まり、研究が進展することが期待される。

2. 本書誌大系にて初掲載の新発見作品「小塔」

この『人物書誌大系47 坪田譲治』刊行までの調査中に、未発見の譲治作品が数多く明らかになった。

そのなかで、最も特筆すべき新発見の作品は、譲治が最初期に発表した小説であった。この作品研究を契機に、今後も新発見作品の解明から多くの研究が進むことが期待されることを踏まえて、今回発見された作品の意義を確認しておきたい。

その作品名は「小塔」である。これは、「日本基督教女子青年会中央委員」発行の機関雑誌『明治の女子』の明治41（1908）年11月15日（第5巻第10号）発行に掲載されたものである。この「小塔」発表の時期は、同年4月に譲治が18歳で早稲田大学文科予科に入学した年の5月頃に作家を志して小川未明に師事した、その約半年後にあたっている。

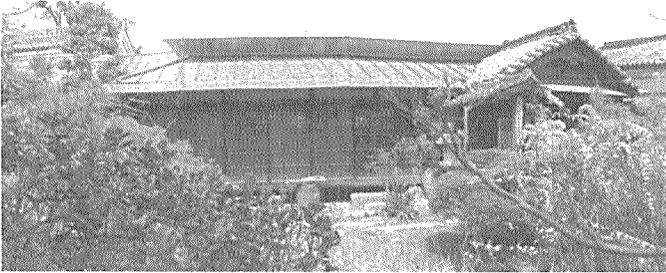
これまで、譲治が最も早く発表した作品は、明治45（1912）年発表の「若き友へ」（『北方文学』）であると認識されていたことから、新発見の作品「小塔」はそれより4年も早く、本著作目録の一番目に配置されるべき作品となった。

この作品が譲治作品として特筆すべきである根拠として、以下4点が注目される。

その1点目は、譲治の号である「坪田城山」が作者名として使用され公表された作品として、「小塔」が新発見となる作品であるという点である。つまり、これまで譲治が金川中学校（現・岡山県立御津高等学校）在学中に、文芸部に所属していることは、同校の資料室および

明治23 (1890) 年

3月3日(戸籍上は6月3日)、岡山県御野郡石井村字島田(現・岡山市島田本町)に父・坪田平太郎、母・幸の次男として生まれる。父は明治13(1880)年に興した島田製織所を経営し、ランプ芯やろうそく芯などを製造。父母のほか、父方の祖父平作、長男醇一(10歳)、長女政野(4歳)と同居。



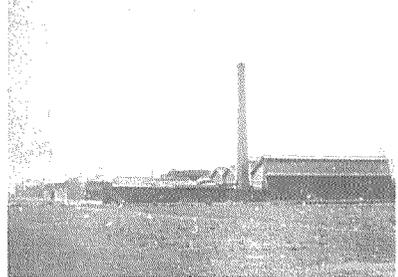
坪田讓治生家(昭和47年)

明治26 (1893) 年 3歳

11月、弟謙三生まれる。

明治29 (1896) 年 6歳

4月、石井尋常小学校に入学。



生家近くの島田製織所(明治末頃)

明治31 (1898) 年 8歳

4月、石井尋常小学校3年に進級。12月、父平太郎没。享年40歳。当時、慶応義塾に学んでいた兄醇一は学業を中途にして帰郷、父の家業を継ぐ。この年、5月、弟恭平生まれる。

明治33 (1900) 年 10歳

4月、御野高等小学校に入学。新聞連載の「赤穂義士」(山陽新報)をふりがなをたよりに読みはじめる。兄醇一結婚。妻久代は立川(現・岡山県赤磐市立川)の出身であり、その後讓治は、その実家を訪ね瀬戸駅から立川周辺の自然に触れる機会をもつようになる。

明治41(1908)年

- A0001 小塔〔小説〕 「明治の女子」 第5巻第10号 明治41年11月15日
*著者名は坪田城山

明治45(1912)年

- A0002 若き友へ〔小説〕 「北方文学」 第1年第2号 明治45年6月1日

大正5(1916)年

- A0003 亡き兄の自画像〔小説〕 「六合雑誌」 第36年第3号 大正5年3月1日
- A0004 小川未明氏の「歎歎」(現代思潮)〔随筆等〕 「六合雑誌」 第36年第4号 大正5年4月1日
*目次は「小川未明の小説」
- A0005 西方浄土〔小説〕 「六合雑誌」 第36年第4号 大正5年4月1日
- A0006 野上彌生子氏の放火殺人犯(現代思潮)〔随筆等〕 「六合雑誌」 第36年第5号 大正5年5月1日
*目次は「野上彌生子の放火殺人犯」
- A0007 心の濱邊〔詩〕 「六合雑誌」 第36年第6号 大正5年6月1日
- A0008 老人と子供と蟹〔小説〕 「六合雑誌」 第36年第6号 大正5年6月1日
- A0009 猫又〔戯曲〕 「科学と文藝」 第2年第7号 大正5年7月1日
*戯曲、読売新聞T5年6月27日に要目あり
- A0010 火事の恐怖に襲れたる村〔戯曲〕 「六合雑誌」 第36巻第8号 大正5年8月1日
*目次は「火事の恐怖に襲はれし村(戯曲)」とある
- A0011 七月の夢〔小説〕 「六合雑誌」 第36年第9号 大正5年9月1日
- A0012 小鳥は啼く〔詩〕 「科学と文藝」 第2年第9号 大正5年9月1日
*詩、「未知の国」に添えられている 著名は「讓治」のみ
- A0013 未知の國〔小説〕 「科学と文藝」 第2年第9号 大正5年9月1日

大正6(1917)年

- C0001 『加藤一夫編 一般人叢書 第六篇』 洛陽堂 大正6年3月13日
 〈収録作品〉コーネー・ヴシリエフ(トルストイ作・坪田譲治訳)〔翻訳〕/
 何故に(トルストイ作・坪田譲治訳)〔翻訳〕

大正15(1926)年

- C0002 『正太の馬』 春陽堂 大正15年12月8日
 〈収録作品〉正太の馬〔小説〕/正太樹をめぐる〔小説〕/枝にかかった金輪〔小説〕/コマ〔小説〕/子供の憂鬱〔小説〕/雷雨〔小説〕/田園小景〔小説〕/三輪車〔小説〕

昭和2(1927)年

- C0003 『源平盛衰記物語(菊池寛編)小学生全集43』 興文社 昭和2年9月18日
 〈収録作品〉源平盛衰記物語(菊池寛編)〔昔話〕

昭和5(1930)年

- C0004 『激流を渡る』 アトラス社 昭和5年10月25日
 〈収録作品〉激流を渡る〔小説〕

昭和10(1935)年

- C0005 『お化けの世界』 竹村書房 昭和10年4月25日
 〈収録作品〉お化けの世界〔小説〕/善太の四季〔小説〕/遊ぶ子供〔小説〕/キャラメルの祝祭〔小説〕/日まわり〔小説〕/笛〔小説〕/けしの花〔小説〕/土に歸る子〔小説〕/カタツムリ〔小説〕/蟹〔小説〕
- C0006 『魔法(坪田譲治童話集)』 健文社 昭和10年7月5日
 〈収録作品〉善太と汽車〔童話〕/正太と蜂〔童話〕/ろぼと三平〔童話〕/樹の下の寶〔童話〕/小川の葦〔童話〕/黒猫の家〔童話〕/鯨〔童話〕/合田忠是君〔童話〕/村の子〔童話〕/母ちゃん〔童話〕/熊

昭和31(1956)年

- D0001 与田準一 坪田譲治・人と作品のある要素 「近代文学」 11巻4号 昭和31年4月
- D0002 尾崎士郎 坪田譲治の味 「新潮」 53巻6号 昭和31年6月

昭和33(1958)年

- D0003 加来和子 坪田譲治とリアリズム児童文学 「香椎潟」 4巻 昭和33年7月

昭和34(1959)年

- D0004 常陸啓 坪田譲治研究—「赤い鳥」期に於ける子供像を中心に— 「国語国文学研究論集」 4巻 昭和34年3月

昭和36(1961)年

- D0005 前川清太郎 坪田譲治「風の中の子供」(児童文学・名作鑑賞6)「文化と教育」 12巻2号 昭和36年2月

昭和40(1965)年

- D0006 大泉ます美 坪田譲治の作品から—「お化けの世界」「風の中の子供」「子供の四季」— 「日本文学ノート」 1巻 昭和40年12月

昭和43(1968)年

- D0007 上坂信男 坪田譲治ノート 「本の手帖」 8巻6号 昭和43年6月

【あ】

- ああ僕も尖兵だ(学徒決戦場) …… A1147
 あいうえお …… A3697
 哀感と新人 …… A0079
 愛魚雑筆 …… A2106
 愛魚随筆 …… A0605
 愛妻随筆 …… A2392
 [批評]「愛の一家」を観て …… A0969
 愛の世界 …… A0951
 愛の日 …… A1043
 青ぐも …… A2893
 青山一族 …… A0289, A1451
 赤い馬 …… A0257
 赤いおわん …… A2852, A3542
 アカイコの歌 …… A3278
 赤い小さな舟(鹿児島県) …… A3486
 「赤い鳥」をもう一度「びわの実学校」創
 刊まで …… A3841
 [インタビュー]「赤い鳥」と私(口談)
 …… A4696
 「赤い鳥」のころ …… A4746
 赤い鳥の綴方について …… A2351
 [まえがき]「赤い鳥の童話」について
 …… A1509
 「赤い鳥」の童話について …… A2302
 赤いむち青いむち …… A2228
 赤馬物語選評 …… A3840
 赤神と黒神のけんか(青森・秋田県)
 …… A3415
 あかがり童子(宮崎県) …… A3495
 赤城大沼にて …… A0636
 あかずきんちゃん …… A2042
 秋 …… A2567
 秋田の三吉さん(秋田県) …… A3435
 秋の丘にて …… A0049, A0917, A1236
 秋の子供 …… A0195, A1064, A1391
 安義橋の鬼 …… A3220
 秋の夜なかに …… A3833
 悪源太義平(平治物語) …… A3340
 悪妻のはなし …… A3997
 悪事の思ひ出 …… A1560
 悪事の算盤 …… A0305, A1072
 芥川龍之介の童話 …… A2083
 芥川龍之介論 …… A4162
 あけずの箱のいわれ(岡山県) …… A3364
 明けゆく村に政一君の祈りの鐘 …… A0864
 阿漕が浦のあま(三重県) …… A3359
 阿古耶の松(山形県) …… A3437
 朝子ちゃんの結婚 …… A4527
 厚狭の寝太郎(山口県) …… A3360
 朝日將軍木曾義仲(平家物語) …… A3344
 朝・昼・晩 …… A4130
 足柄山の金太郎(神奈川県) …… A3136
 網地島の山ネコ(宮城県) …… A3421
 遊ぶ子供 …… A0172, A1333, A4283
 与へる芸術 …… A0615, A1289
 與へる藝術(上)眞實なき童話、(下)具體
 的な人生を …… A0416
 あたご山のいのしし …… A3130, A4382
 足立姫ものがたり(東京都) …… A3194
 あだ名の話 …… A0186, A0761
 あたまにカキの木 …… A2541
 頭にかきの木 …… A2178, A2960
 頭にカキの木 …… A3560
 頭に柿の木 …… A1163, A2714
 頭の中の小説 …… A1174
 [座談会]新しい時代を語る …… A1423
 [座談会]新しい時代の文章について
 …… A1365
 [インタビュー]新しい児童文学を(金曜イ
 ンタビュー) …… A4504
 [アンケート]新しい歳のプランと抱負
 …… A3874
 [書評]新しい「母」のいる作品 壺井栄さ
 んの大人のための童話「柿の木のある
 家」 …… A2232
 あたらしいパンツをはいて …… A1968
 新しいパンツをはいて …… A0293,
 A0553, A0867, A1222, A2270, A4271
 跡江の半平どん(宮崎県) …… A3500
 [あとがき]あとがき …… A0841,
 A0844, A0896, A0919, A0990, A1006,
 A1014, A1016, A1042, A1081,
 A1099, A1103, A1126, A1141,
 A1192, A1250, A1310, A1407,

山根知子（やまね・ともこ）

ノートルダム清心女子大学文学部教授。博士（文学）。専門は日本近代文学および日本児童文学。宮沢賢治学会、日本児童文学学会、日本キリスト教文学会、日本近代文学会所属。坪田譲治文学賞を運営する岡山市文学賞運営委員。ノートルダム清心女子大学附属図書館「坪田譲治コレクション」担当。著書に『宮沢賢治 妹トシの拓いた道—「銀河鉄道の夜」へむかって』（朝文社）、『わたしの宮沢賢治 兄と妹と「宇宙意志」』（ソレイユ出版）、共編著に『イーハトーヴからのいのちの言葉—宮沢賢治の名言集』（角川書店）など。坪田譲治研究では、草稿研究、作品背景の調査研究、キリスト教思想研究など、多数の作品論・作家論を発表。

鈴木榮一（すずき・えいいち）

1978年上智大学理工学部物理学科卒業。2002年岡山市役所入庁、デジタルミュージアム開設準備室長として建築開館業務にあたる。2009～2022年国崎クリーンセンター啓発施設・所長。2021年より兵庫県環境審議会委員就任。坪田譲治研究会、「文学と岡山」製作委員会、環境学習施設を考える会などの事務局を担当。

人物書誌大系 47

坪田譲治

2022年6月25日 第1刷発行

編者／山根知子・鈴木榮一

発行者／山下浩

発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

©Tomoko YAMANE & Eiichi SUZUKI 2022

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

組版処理／有限会社デジタル工房

印刷・製本／株式会社平河工業社

不許複製・禁無断転載

（中性紙北越淡クリームキンマリ使用）

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

ISBN978-4-8169-2926-7

Printed in Japan, 2022